令和　7　年度

学　校　評　価

＜記入上の留意点＞

○ 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。

○ 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価ⅣはABCDで記入する。

○ 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼　崎　市　立　　立花中　　学　校

令和7年度　学校評価

【教育の基本方針】(第2次尼崎市教育振興基本計画)

1　個の尊厳や人権の尊重

2　未来志向の教育

3　家庭・地域社会との連携

[各校の重点取組について]

1. 生徒理解にもとづく生徒指導の充実　　2. 学力向上の推進

3. 道徳教育、キャリア教育の推進　　4. 業務改善・勤務時間の適正化　　5. 今日的課題に対応する教育の推進

学 校 評 価 の 観 点

1　学ぶ力と健やかな体の育成

(1)　基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得及び、思考力、判断力、表現力を育むとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による確かな学力を育成する。
(2)　多様な視点や価値観で物事を見つめる実体験を大切にし、課題解決能力を高める学習を充実を図る。
(3)　運動に親しむ習慣づくりを促進し、運動能力向上に努めるとともに、様々な健康課題を踏まえた健康教育を推進する。
(4)　給食の活用等による発達段階に応じた食育を推進するとともに、家庭や地域への理解啓発を図る。

評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
3	3

取組	成果	課題と改善策
・あまっ子ステップアップ調査の昨年度の結果に基づき、「生徒が自ら家庭学習に取り組み、学力向上を図る取組」「ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学級経営」「教員の授業相互見学週間」「読解力育成モデル授業」に取り組んだ。 ・1学期に道徳、2学期には社会と保健体育で校内研究授業を実施した。 ・小中連携では、ウェルカム授業を実施し、合同研修の中で、『要支援児童・生徒について関係機関とどのように連携するか』の各学校の取り組みについて教員間での情報交換を行った。	・ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学級経営については関西国際大学の百田教授を招いての研修を実施した。 ・昨年度の学校評価結果から、連絡帳の記入時間や方法を改善し、家庭学習への取組につなげた。 ・校内研究授業では、教科の枠を超えた授業力の向上に取り組むことができた。 ・小学校の教員と情報交換を行うことで、9年間を見通した指導を意識して行うことができた。	・今年度は評価についての研修を2回実施し、自らの授業の組み立てについても見直しを行ったが、来年度以降もう一段階学校を進化させるために必要なことについて検討する必要がある。 ・教育課程の編成上、日常的に小学校との連携は難しいが、無理なくできることから継続的に実施していくことで校長間の共通理解を得ることができた。 ・小中連携については、これまで中学校主導で行ってきたが、担当校を順に回すことで小学校の教員の意識向上にもつなげた。

2　多様性と包摂性のある教育の推進

(1)　支援を必要とする子ども一人ひとりへの多様な教育ニーズに対応するとともに、学校外のグラデーションある学びの場や他機関等との連携を推進する。
(2)　インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の提供に向けた体制の整備による切れ目のない支援の充実を図る。
(3)　共生社会の実現に向け、違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する心、共に生きようとする意欲や態度を育む。

評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
3	3

取組	成果	課題と改善策
・週時程に組み込まれている教育育相談委員会では、各学年の不登校担当、特別支援学級担任、特別支援コーディネーター、通級担当教員、SSW、管理職が入って要支援生徒についての情報交換、支援方針について検討を行った。 ・教育支援委員会の内容を各学年や職員会議で情報共有し、見通しを持った支援にあたった。 ・長期欠席生徒について、卒業判定・進級判定に向けて校長が本人・保護者と面談を実施し次年度に向けた目標を確認し保護者とも連携を行った。	・支援を要する生徒については、関係機関と連携することで登校または保護者と連絡がついたケースがあった。 ・個別ケースについて学年や学校全体で情報を共有することで、授業をおこなう教員や遅刻してきたときに対応する教員の声のかけ方が変わった。 ・年度末に実施する校長面談で、担任教諭だけでない角度から生徒本人、保護者にも次年度に向けた意識づけができた。	・今後も支援を要する生徒は増加する傾向がみられる。個々に家庭での背景も異なるため生徒個別の支援の方策についてはその都度考え見直していく必要がある。 ・今後も担任や学年任せになることなく、関係機関との連携を大切にし、学校全体で取り組んでいく。 ・関係機関とは日常のつながりや情報交換を大切にし、非常時にはタイムロスのないように対応してもらえるような関係を構築していく。

3　豊かな心の育成といじめ防止の取組

評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
3	3.5

（1） 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成する。
（2） 命を大切にする心や思いやりの心、規範意識等の醸成に向け「道徳教育」や「心の教育」やその充実を図るとともに、様々な体験活動を通して豊かな人間性と社会性を培う。
（3） 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを推進し、道徳科や特別活動、体験学習等を通じていじめの未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応に取り組む。
（4） 尼崎市の歴史や伝統・文化への理解を深めるとともに地域への愛着等、児童生徒の感性を高め、豊かな情操を養う。

取組	成果	課題と改善策
・年度当初に生徒理解研修を実施し、特別な支援を要する生徒についての共通認識を図った。 ・生徒向けの人権講演会、性教育講演会を実施することで命の大切さや人権にかかわる生徒の意識の向上を図った。 ・いじめについては年間3回のアンケートを実施することで、早期発見・早期対応ができた。 ・SNSに係るトラブルはここ数年どこの中学校でも多く見られるため、情報モラル研修会を実施し生徒の意識を高めた。 ・要支援児童・生徒の増加もあり、小中合同研修の中で研修するとともに意見交換を行った。	・毎週行う生徒指導員会、教育相談員会で、特別に支援を要する生徒や不登校生徒の情報交換を行い、学校全体で支援をしていく情報共有が行えた。 ・卒業判定、進級判定にかかる生徒と保護者に対して校長面談を実施し、来年度向けた話し合いができた。 ・いじめに対するアンケートの実施と、対応については教員の意識が変わってきている。 ・自死や自傷行為に係る検索をして、見守りフィルターに引っかかる生徒についても情報をキャッチしたあとの校内での情報共有および保護者との連携を迅速に行うことができた。	・不登校生徒の割合は依然として多く、個の生徒に応じた支援を来年度も継続して取り組む。 ・生徒はいじめは絶対にいけないことの認識はあるが、クラスにそれを許さない雰囲気があるかと問われるとまだまだ意識が低い面が見られた。 ・いじめについては、その場で止めることができなくとも、周りではやし立てない、見て見ぬふりをしない、教員に相談することの重要性を周知していくことが大切である。 ・SNSのトラブルについては定期的な講演会等を行ってもなかなか0（ゼロ）になることはなく、継続した指導の必要性が感じられた。

4　教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備

評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
3	3

（1） ICTを活用した更なる多様な学びを実現を目指して、ICTを活用した学習のデジタル化を積極的かつ効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
（2） 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導力の向上を図る。
（3） 社会的な良識と人権感覚、高いコンプライアンス意識を持ち、子どもや保護者、地域社会から信頼される教員の育成を図る。
（4） 教員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいのある学校園づくりを進める。

取組	成果	課題と改善策
・校内研究授業や相互授業参観習慣をとおして、ICTを活用した授業展開について意見交換を行った。 ・自動採点システムの有効な活用について情報共有を行った。 ・職員会議の中で定期的にコンプライアンス研修、非違行為防止研修を実施し、教員の意識を高めた。 ・ノー会議デー、定時退勤日を月中行事表や連絡黒板にも明記し教員一人ひとりの意識付けを行った。	・ICTの活用については秀でた教員と苦手な教員との差が大きいが教員間の雰囲気が良いことがお互いに聞き合える関係ができていた。 ・校内の業務改善と合わせて、記録簿や日々の勤務実態を把握しながら教員には声かけや面談を行いながら対応した。 ・コンプライアンスや非違行為防止研修を定期的に行うことで他で起こっている事例について教員間で話し合う場面が見られた。 ・各教員は生徒、保護者、地域の人とていねいに関わる中で、地域の中の学校であることを意識するようになってきた。	・業務改善については、それぞれの教員が少しずつは意識しているが、絶対的な業務量が減らないため困難な面はあるが、仕事にメリハリをつけることでリフレッシュを図ることで対応している。 ・今年度できなかった勤務実態を明らかにする取り組みは来年度は再度行い、教員の心身の健康を維持したい。 ・生徒と地域の交流はなかなか十分にはとれていないが、学校と地域の関係団体との情報交換等で学校の様子を発信するとともに、地域の中の学校を意識した取り組みを進めていきたい。

5　家庭地域社会一体となった教育の充実

（1） コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的推進し、「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて取り組む。
（2） 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る。
（3） 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る。

評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
3	3.5

取組	成果	課題と改善策
・今年度の重点取組の生徒理解にもとづく生徒指導の充実の中で、生徒、保護者、地域の人とていねいに関わること、思いを受け止めるということを中心に学校経営を進めてきた。 ・学校運営協議会を立ち上げ、委員には学校行事を見ていただくとともに定期的な会議を通して学校の様子を発信し、意見を求めた。 ・1.17を忘れない地域防災訓練においては、地域住民、近隣保育園、消防、行政と連携して防災訓練を実施した。 ・1年生対象の自転車安全教室の実施、登下校時の安全指導は毎回の朝礼で行った。	・学校行事では、できる限り多くの保護者や学校運営協議会委員に学校の取組を見ていただき生徒と教員の取り組みについて評価していただくことができた。 ・部活動での自転車移動も含めて生徒のヘルメット着用が増加している。 ・SNSの使い方によっては、被害者になることも加害者になることもあり得ることについての理解が進んだ。 ・地域防災訓練では例年実施している避難訓練とは違った学びが生徒も教員もできた。	・登下校のマナーについて地域からご意見をいただくこともあり、校区へ出向いての見守りを含めて継続した指導の必要性を改めて感じた。 ・一部で自転車の乗り方について、危険なところがあったり周りに迷惑をかけているところもあるため継続した指導が必要である。 ・スマートフォン、SNSに関わるトラブルは毎年講演会等を実施してもなくなることはなく、継続した指導を続ける必要性を感じている。 ・災害はいつ発生するかわからないため、防災意識を高めるとともに、もしもの場合に生徒が自ら考えて判断し行動する力を養っていく。

教育目標

（1） 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開
（2） 教育目標の具現化と指導の充実

評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
3.5	3

取組	成果	課題と改善策
・生徒理解にもとづく生徒指導の充実、学力向上の推進、今日的課題に対応する教育の推進を重点目標として、生徒向け研修会、小中連携、職員研修を進めた。 ・昨年度の学校評価アンケートから気になる点を具体化し、数値目標を立てて全教員で共通理解を図った。	・教員は生徒、保護者とていねいにかかわり、日々の教育活動に熱心に取り組んだ。 ・校内における具体的な学校評価を実施し、現状の把握に努めた。 ・数値目標を立てて取り組んだ課題について、多くの改善点が見られた。	・生徒、保護者、地域から信頼される学校、安心・安全な場所である学校を目指し、今年度の反省も活かし来年度も取り組んでいく。 ・数値目標を立てて取り組んだ課題について、経年比較をしていくと多くの改善点が見られた。目標数値は達成していない課題については来年度も継続して取り組んでいく。

研究テーマ

（1） 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開
（2） 研究テーマの具現化と指導の充実

評価Ⅰ（教職員）	評価Ⅱ（校園長）
3	3

取組	成果	課題と改善策
・「生徒が自ら家庭学習に取り組み、学力向上を図る取組」、「ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと学級経営」を研究テーマとし、教科と道徳の校内研究授業を実施した。 ・「相互授業参観週間」を設けて、お互いの授業を見ることで授業力の向上、評価の仕方の工夫についてつなげた。 ・小6児童へのウェルカム授業を実施し、小学校教員との交流を図るとともに、合同研修の中で、学習指導、生徒指導、特別活動等の各学校の取り組みについて教員間での情報交換を行った。	・ユニバーサルデザインを意識した授業や学級経営については多くの教員が意識を持って取り組むことができ、発達に課題がある生徒も落ち着いて学校生活をおくることができた。 ・研究テーマに基づき、見通しを立てた学習を行うための連絡帳について記入時間を含めて改善を行った。 ・校内研究授業では、教科の枠を超えた授業力の向上に取り組むことができた。 ・小学校の教員と情報交換を行うことで、9年間を見通した指導を意識して行うことができた。	・来年度多くの教員が入れ替わる中で、もう一段立花中を進化させるために必要な研究テーマを設定するために研究推進委員会を活性化させる。 ・学校評価アンケート結果を踏まえて、研修計画を立てる必要がある。 ・教育課程の編成上、日常的に小学校との連携は難しいが、無理なくできることから継続的に実施していくことで校長間の共通理解を得ることができた。